

国立大学法人秋田大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由				
I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 社会との共創に関する目標を達成するための措置 【1】地方公共団体や地元企業等との産学官連携として、地域社会や産業を牽引するため、府省・地方公共団体等の競争的資金を活用したプロジェクト事業、各種セミナーや研修会等を実施し、地域の課題解決のための共同研究等を推進する。	I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 社会との共創に関する目標を達成するための措置 【1】地方公共団体や地元企業等との産学官連携として、地域社会や産業を牽引するため、府省・地方公共団体等の競争的資金を活用したプロジェクト事業、各種セミナーや研修会等を実施し、地域の課題解決のための共同研究等を推進する。	総合環境理工学部への改組に伴う変更 （現在の理工学部は2025年度の改組により、総合環境理工学部（改組）と情報データ科学部（新設）となるが、地元企業等との各種セミナー等の開催は、全て総合環境理工学部に移行するため、2025年度実施より総合環境理工学部の評価指標として整理する）				
<table><tr><td>評価指標</td><td>2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と<u>理工学部</u>で合わせて年7回以上開催する。</td></tr></table>	評価指標	2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と <u>理工学部</u> で合わせて年7回以上開催する。	<table><tr><td>評価指標</td><td>2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と<u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u>で合わせて年7回以上開催する。</td></tr></table>	評価指標	2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と <u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u> で合わせて年7回以上開催する。	
評価指標	2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と <u>理工学部</u> で合わせて年7回以上開催する。					
評価指標	2) 地元企業等との各種セミナー等を教育文化学部と <u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u> で合わせて年7回以上開催する。					

現 行	変 更 案	変更理由				
2 教育に関する目標を達成するための措置 【7】オンデマンド教材を含むデジタル教材のより一層の充実化を図り，授業中のみならず時間外においても主体的・自律的に学習する環境を整備し，また専攻分野における課題に対して，論理的に探究することができる能力を養うため，アクティブ・ラーニング（能動的学修）を推進する。	2 教育に関する目標を達成するための措置 【7】オンデマンド教材を含むデジタル教材のより一層の充実化を図り，授業中のみならず時間外においても主体的・自律的に学習する環境を整備し，また専攻分野における課題に対して，論理的に探究することができる能力を養うため，アクティブ・ラーニング（能動的学修）を推進する。	総合環境理工学部への改組に伴う変更 （現在の理工学部は2025年度の改組により，総合環境理工学部（改組）と情報データ科学部（新設）となるが，分野横断型教育プログラムの設定及び本プログラム内のオンデマンド教材を整備する計画は，全て総合環境理工学部に移行するため，2025年度実施より総合環境理工学部の評価指標として整理する）				
<table><tr><td>評価指標</td><td>5) <u>理工学部</u>では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。</td></tr></table>	評価指標	5) <u>理工学部</u> では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。	<table><tr><td>評価指標</td><td>5) <u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u>では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。</td></tr></table>	評価指標	5) <u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u> では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。	
評価指標	5) <u>理工学部</u> では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。					
評価指標	5) <u>理工学部（2025年度に総合環境理工学部へ改組）</u> では，第4期終了時までに分野横断型教育プログラムを2件以上設定し，本プログラム内に25%以上のオンデマンド教材を整備する。					

現 行	変 更 案	変更理由
【16】文部科学省認定社会通信教育である「<u>秋田大学理工学部通信教育講座</u>」において、郵送を用いる従来からの教学スタイルに加え、W e bを用いる方法を整備することにより、社会人の職業上必要となる知識や技術の習得，教養知識のレベルアップに貢献する。	【16】文部科学省認定社会通信教育である「<u>秋田大学理工学部通信教育講座</u>」（2025年度から「<u>秋田大学総合環境理工学部通信教育講座</u>」）において、郵送を用いる従来からの教学スタイルに加え、W e bを用いる方法を整備することにより、社会人の職業上必要となる知識や技術の習得，教養知識のレベルアップに貢献する。	総合環境理工学部への改組に伴う変更 （現在の理工学部は2025年度の改組により，総合環境理工学部（改組）と情報データ科学部（新設）となるが，本通信教育講座は総合環境理工学部に移行する）

現 行		変 更 案		変更理由
【18】英語による情報発信や留学生が安心して生活できる支援体制の構築やICT環境を充実化し、またシラバスの英語化の促進、英語で実施される教育プログラムを構築し、優れた留学生を獲得する。		【18】英語による情報発信や留学生が安心して生活できる支援体制の構築やICT環境を充実化し、またシラバスの英語化の促進、英語で実施される教育プログラムを構築し、優れた留学生を獲得する。		総合環境理工学部への改組に伴う変更 (現在の理工学部は2025年度の改組により、総合環境理工学部(改組)と情報データ科学部(新設)となるが、理工学部における私費外国人留学生定員は、全て総合環境理工学部に移行するため、2024年度に実施する入学者選抜より総合環境理工学部の評価指標として整理する)
評価指標	優れた留学生獲得を推進するため、以下の評価指標を設定する。 1) 年間250名(2020年度末200名)の留学生の受入れを目指し、この人数を毎年維持する。なお、国際資源学部では入学時から卒業時まで全て英語の授業を受けられるようにし、2022年度から段階的に留学生を増加させながら、第4期終了時に1学年の定員の10%とする。また理工学部では学部入学定員に対する私費外国人留学生定員を、2021年度の5.31%から、上半期中に8%以上とし、第4期終了時まで10%以上まで増加させる。	評価指標	優れた留学生獲得を推進するため、以下の評価指標を設定する。 1) 年間250名(2020年度末200名)の留学生の受入れを目指し、この人数を毎年維持する。なお、国際資源学部では入学時から卒業時まで全て英語の授業を受けられるようにし、2022年度から段階的に留学生を増加させながら、第4期終了時に1学年の定員の10%とする。また理工学部(2025年度に総合環境理工学部へ改組)では学部入学定員に対する私費外国人留学生定員を、2021年度の5.31%から、上半期中に8%以上とし、第4期終了時まで10%以上まで増加させる。	

現 行		変 更 案	変更理由
別表 学部、研究科等及び収容定員		別表 学部、研究科等及び収容定員	令和 7 年度総合環境理工学部への改組及び情報データ科学部の新設に伴う令和 9 年度末時点における収容定員の変更
学 部	国際資源学部 480人 教育文化学部 <u>840人</u> 医学部 1,221人 理工学部 <u>1,604人</u> (収容定員の総数) 4,145人	学 部 国際資源学部 480人 教育文化学部 <u>780人</u> 医学部 1,221人 理工学部 <u>407人 (R7募集停止)</u> ※3年次編入学はR9募集停止 <u>総合環境理工学部 957人 (R7設置)</u> <u>情報データ科学部 300人 (R7設置)</u> (収容定員の総数) 4,145人	
研究科等	(略)	研究科等 (略)	